



NO.1362

4月17日号

発行所

日本共産党
網走市委員会
網走市北八西三
四三二一四四五八
F 四三二一四四五七



今すぐ戦争をやめろ！



争をやめろ！」の宣伝行動を行いました。

「かけある記」

広がれ平和の声

交通事故に遭われた松橋ちはるさんが療養に専念することから、私が参院選の北海道選挙区から立候補することを発表しました。あたたかさと芯の強さを備えた松橋さんには、応援と期待の声を寄せられています。松橋さんの思いを継いで、がんばりぬきます。よろしくお願ひいたします。

士別市議選挙と帯広市議補欠選挙、新ひだか、安平の両町議選挙で日本共産党候補者への応援など、各地をまわっています。コロナ禍や物価高騰、年金削減などからくらしを守る住民の味方の議席、そしてロシアのウクライナ侵略を許さないと地域から声をあげる反戦平和の議席です。投票日は17日、ぜひご支持を広げてください。
「終戦の年に生まれ、親から戦争は絶対ダメだと何度も言われた」。旭川市の「つどい」で口を開いた方は、その

2022年4月11日

元衆議院議員 畠山和也



言葉が今になってよくわかると、こう続けました。「ウクライナから子どもを連れて避難する母親の姿が、空襲警報のたびに赤ん坊の私を連れて壕に入ったという私の母親と重なった」。あのような時代にしてはならないという話に、背筋が伸びました。

自民や維新から敵基地攻撃や核兵器共有、憲法改悪など危機をおおる発言がされています。しかし、政治の役目は戦争しないよう外交に努力を尽くすこと。今こそ反戦平和を貫く日本共産党を大きくしなければなりません。
和也の「和」は平和の「和」。「はたやま動くところ、平和が広がる」ようにがんばりぬきたい。

松浦 奮戦メモ



プロ野球・ロッテ

全試合を達成したことが、しんぶん赤旗日刊紙のコラムで書かれています。「人を育てるには多くの関係者の努力の積み重ねがある」。甲子園目前の県大会で「故障を防ぐため」に連投を回避し、大船渡高校の監督が批判を浴びました。
完全試合は28年ぶりで20歳5カ月は史上最年少、プロ14試合目での達成でした。9歳の時、東日本大震災に会い父と祖父母を失いましたが、苦難を乗り越えての記録達成です。球団も体づくりに専念させ、無理をさせないなど、多くの支えがあつて偉業が達成したのです。未来を見据えて育てることを学ばされました。

村ちゃん しゃべり



「くまのプーさん」の絵本では争いや諍言は無く、危機と言



えば大雨などの自然災害です。子ども読み聞かせの時は、のどかなストーリーに仕事の忙しさも忘れてしまいました。
その作者のA・A・ミルンは第一次世界大戦に志願、激戦地ソムムの塹壕で多くの仲間を失う経験を生き延びました。晩年、あの精神的・道徳的退廃の悪夢、つまり戦争のことを考えただけで、吐き気をおぼえたと語っています。挿絵を書いたシェパードも戦争経験者で、銃をおもちの銃に描き直すなど、ミルンへの配慮がうかがわれます。平穏な話は戦争への抵抗だったのです。
ミルン生誕140年の今年、凄惨な戦争が再び起きました。人々の生活を奪い、命を奪い、心を奪う戦争から生まれるものなどありません。「戦争を早く終わらせたい。ウクライナに平和を」の願いを声にして、大きくしていきたい。

流氷

ロシアに侵略を受けているウクライナの「国の花」は、最近ではヒマワリとされています。この種にまつわるウクライナの老婦人が、若いロシア兵に発した抗議のコトバは「何しに来た。お前が死んだ後に花が咲くようにポケットに入れとけ！」でした。ヒマワリは、ロシアの国花でもあります。▼しかし、ウクライナの正式な国花は、西洋肝木「セイヨウカンボク」と酸実実桜「スミミザクラ」です。▼今、ロシアの侵略にあらがうウクライナの人々の励ましになる歌があります。カンボクはガズミとも言います。▼チャルネツキの詩で第1次世界大戦に際し、ウクライナ民謡に当てられました。▼『ああ 草原の赤きガズミよ』『ああ 草原の赤きガズミは垂れ下がりに何故に我らが栄光のウクライナは嘆き悲しむー我らは赤きガズミを掲げてー輝かしきウクライナを前へ前へ応援しようー我らは赤きガズミを掲げてー輝かしきウクライナを前へ前へ応援しよう』



カンボクの実
をあげましよう。
とみんなが声をあげましよう。
器は使えな
とみんなが声をあげましよう。
博物館友の会
会員 小森